



高槻ロータリークラブ 2017~2018 WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I. 真実かどうか
- II. みんなに公平か
- III. 好意と友情を深めるか
- IV. みんなの為になるかどうか

事務所 オーロラモール高槻西武6階 〒569-1116 高槻市白梅町4-1
TEL 072-683-1158 FAX 072-683-1174
E-mail takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 オーロラモール高槻西武6階 多目的ホール TEL 072-684-5379

創立 1954年6月15日

会長 浜田厚男 幹事 橋本憲治 クラブ運営委員長 馬淵晴彦 会報担当副委員長 藤田貴子

No.42 2018年5月30日発行

5月は青少年奉仕月間

第3120回 本日(5/30)の例会

- ◎ソング...それこそロータリー
- ◎卓話
羽根田 茂子君
「相続で、もめないために」
- ◎例会後の行事
職場訪問(株フジワーク) 14:00~
例会後 13:40 出発予定
第4回情報集会 16:00~ つきの井
懇親会(新入会員歓迎会) 17:00~ つきの井

第3121回 次回(6/6)の例会

- ◎国 歌...君が代
- ◎ソング...奉仕の理想
- ◎誕生、結婚、入会記念月御祝
- ◎創業記念月御祝
- ◎卓話
高槻市教育委員会地域教育青少年課
矢野 幸広 課長代理
「青少年の健全育成に関して」
- ◎例会前の行事

※6/27 現クラブアッセンブリー 13:30~ 例会場
※6/27 新旧クラブアッセンブリー 18:00~ 山水館

◎5/23 出席報告

会員数	出席者数	出席率
53名	37名	77.08%
前々回例会補正後出席率	97.96%	
但し、Mup 8名	欠席者 1名	
出席規定適用免除有資格者	3名	

先週(5/23)例会より

◎ビジター・ゲスト 0名

◎会長の時間

土曜日高槻東ロータリークラブの45周年記念の記念式典と懇親会に参加してきました。

13時30分からの記念式典が始まり、18時30分からの懇親会と中身の濃い一日となりました。丁度1年後に高槻の65周年も同じホテルグランヴィア大阪なので、同じく参加した伊藤エレクトは、想いは1年後に行っていたと思います。

いろいろと趣向がこらされ、パネルディスカッションはなかなか、RIの考えている事など今後のロータリーの動きがよくわかりました。

お金も準備も人手も色々かかるとは思いますが、来年みんなで協力して65周年を成功させましょう。

続いて、金曜日から行く台湾情報ですが、近々にいった人の話では、とても気温が高く暑いらしいです。お金のレートは1元 3.7円です。コンセントは日本と同じです。金曜日、朝早いですがよろしくお願ひ致します。



◎5/23 卓上花
アルストメリア
持続

新入会員のご紹介



氏名 塚本 正勝
生年月日 S42年8月23日
勤務先 ㈱塚本建築設計事務所
アドレス office@zumen-ya.com

自宅住所 〒569-1046
高槻市塚原 2-21-9
職業分類 建築士
推薦者 倉本 進 波々伯部廣行
坂野 信一
趣味 食歩歩き
好きな言葉 一期一会

◎幹事報告

- ・1月21日開催された「高槻シティハーフマラソン」報告書が届いております。後方テーブルに置いておりますので、ご覧ください。
- ・高槻西 RC より例会変更のお知らせが届いております。
6月14日(木) 西武 桃谷楼にて
6月28日(木) 西武 かつ乃にて
いずれもビジター受付はありません。

◎委員会報告

○青少年奉仕委員会

内本 繁

・2018-2019年度インターアクト海外研修のご案内が届いております。行程表を付けて回覧致しますので、皆様のご参加をよろしくお願いいたします。
2019-2020年度は当クラブがホストとなり海外研修を実施することになっております(行先、スケジュールは調整中)。スポンサークラブとして来年に備える意味を含めて皆様の御協力よろしくお願いいたします。

【日程】2018年8月2日(木)～5日(日)

※現地3泊

【場所】国際ロータリー第3461地区(台湾)

※6月4日(月)申込締め切り

※オリエンテーション

7月21日(土)15:00～17:00

大阪国際大学(1号館 4階 415教室)

・先週の例会にて高槻中学高等学校インターアクトクラブのメンバーが来会し、5月27日(日)クリーンハイクのPRをしていただきました。当クラブより現在8名の参加者がいますが、当日参加できる方は事務局へお申し出ください。どうぞよろしくお願いいたします。

○ゴルフ同好会

西澤 直紀

高槻3RC ゴルフコンペ開催のご案内が届いております。回覧を回しますので、ご参加の程宜しく願います。

【日時】2018年7月15日(日)9:48スタート

【場所】ベニーカントリー倶楽部

◎卓話

「 思いのままに 」

西田 直弘

皆様、改めまして西田でございます。
本日の卓話の時間をいただき、ありがとうございます。
本来なら、外部卓話講師、淵上浩美さんをお招きし、ジャイカ(JIKA)を通じた活動のお話しをいただく予定でしたが残念なことに急渥カンボジア戻られることとなり、その機会は延期となってしまいました。

2011年高槻・東・西のSRCによるカンボジア医療支援プロジェクトにより、シェムリアップ県での3年間計8,000人の子供たちに日本脳炎のワクチン無料接種と、人工透析機器3台・浄水装置1台を設置しました。

あれから早7年という月日が経ちましたが、その後、我々はカンボジアに行っておりませんが、現地はどのような経過を辿っているのか、淵上さんを通じて、カンボジアのその後を知る機会がありました。その話を聞く中で、我々に出来ることがあるのではないかと思います。是非彼女の想いをこの場で聞かせてほしいと考えておりました。丁度この時期に日本に戻られていたのですが、残念なことに、5月19日に急渥カンボジアへ戻られることになってしまい、お話いただく機会が無くなってしまいました。そのため、私が少し彼女の活動を話したいと思います。

淵上宏美さんご自身は、ジャイカを通じて、7年間カンボジアで地雷撤去を行われておられます。また、開発途上国への海外展開を検討する企業への支援も行われております。

ジャイカとは、独立行政法人国際協力機構で、2003年10月1日に設立された外務省所管の独立行政法人で、日本の政府開発援助を一元的に行う実施期間として、開発途上国への国際協力を行っている期間です。外務省を通じて7年前に、ある政治家の方から地雷撤去活動へ行かないかと提案され、現在も活動されておられます。

現在カンボジアには、約600万個の地雷が埋設されていると言われており、地雷・不発弾を撤去するために、カンボジア政府機関やNGOの地雷撤去団体が活動されております。毎年撤去できる地雷の数は4万～5万個ほどです。撤去資金が不足しているため、現在のペースですとカンボジア国内の地雷・不発弾すべてを撤去するにはまだまだ100年以上かかると言われています。

淵上さんは、京都洛西ロータリークラブの鈴木会長と協力し、活動されておられると聴きました。

京都洛西RCの鈴木会長は、カンボジアのバタンバン州の地雷原の跡地に、クリアン村とチロック村に小学校2棟とトイレを建設されたとのこと。

しかし、地雷原の村には電気も水道もなく、子どもたちは極めて不衛生な環境で生活しています。そのため現在は、水の衛生環境を整えるプロジェクトもされているそうです。そのあたりの話を淵上さんに話していただこうと思いましたが、非常に残念でありました。

彼女の活動は、彼女が話すことで臨場感や説得力が生まれますが、私の話ではただの感想文になってしまいます。彼女がまた日本に戻って来られた際に、この場所でお話しをしていただきたいと思います。

私はこの卓話の時間、あまり原稿を考えておりませんでしたので、「私の履歴書」でお願い致します。

さて、ロータリーメンバーの方も半分近く変わられており、私のことをよく知らない、又はご存知でない方も多いと思います。何をしている人間なんだろう？長年いる人だろうという印象だけがあるかと思います。

そこで、一点目自分の人生の履歴、職業について、2点目今後の人生をあげて話をしたいと思います。

まず、一つ目の私の人生ですが、70年程前に現在の高

槻市芥川町 3 丁目 旧西国街道に面した旧芥川一里塚町に生まれ育ち、酒屋を営んでいるものであります。

旧西国街道とは、京から西宮まで約 64km ある東海道より歴史が古く、12 世紀ごろには山陽道の一部として、京の都・奈良の都と九州大宰府を結ぶ、大切な流通経路でもありました。そして 17 世紀初め徳川幕府によって、五街道とともに西国街道も整備され、そして、7~10km の間隔で宿駅が設けられました。五街道とは、東海道・中山道・日光街道・奥川街道・甲州街道のことをさします。芥川は西国街道宿場駅として、12 世紀ごろに存在し、大名や公卿は本陣、その家来たちは脇本陣等に泊まり、又庶民の旅では、琴平まいり、お伊勢まいり、そして有馬温泉などへ行く道中に、芥川宿の旅籠に泊まって楽しい旅をしていたようです。当時芥川の旅籠は 33 軒あったそうです。

この旧西国街道 芥川の地において創業 186 年、初代半二郎が天保 3 年 1832 年に醤油商を始め、やがて 2 代目勝次郎、3 代目伊三郎と共に、醤油卸業、酒販業も合わせて営んでおりました。

4 代目の父が昭和 36 年、私が 17 歳の時に急死し、大嵐のような日々でしたが、残された母と私ども姉弟で守ってまいりました。引き継いだ後、順風満帆ではありませんでしたが、順調な足跡をたどることができたのは、今もひとえにお客様をはじめ、問屋。メーカー等のご協力の賜物であり、深く感謝しております。当初は、個人商店の西田本店でしたが、平成 2 年に株式会社 西田本店に変更し、現在に至っております。

さて酒販業は、大阪国税局 茨木税務署より酒販免許をいただいて営業をしております。現在、高槻市内の酒販店は 75 店舗あり、高槻の小売酒類組合、また高槻酒類調味料小売組合にも加盟しております。

そこで私は理事長をさせていただきながら、組合活動を行っております。

至酔性アルコールを使うものとして、組合員は年 1 回 5 月に未成年飲酒防止への啓発キャンペーンや 3 R こと『リデュース(減量)・リユース(再利用)・リサイクル(再生)』などなど色々ありますが、特にこの 2 つを強く進めております。私が 8 年ほど前にロータリークラブの会長職をさせていただいた際にも S R を提示させていただきました。皆様、覚えていらっしゃる方がおいででしょうか。

私達の町の酒屋は、ビンなど店頭回収によりリターナブル瓶の維持・継続とリユースする為に新しい仕組み作りを提案して参りました。

私達、自店が売ったビンや、他店からのビンにかかわらず、空ビン回収に努力しているのですが、ビンの回収が特に少なくなっております。

それは、ご承知の通り、ペットボトル・少容器などの移り変わりの為、仕方がないと思いますが、環境資源を大切に考えるならば、本当にこのままで良いのでしょうか。リターナブル瓶の供給は減少し、身近にリターナブル瓶入りの商品が見当たらないのが現状です。環境面から見て、適正な生産・消費達成する為、地域に根ざした実践によって変化の波を起し、その先にある本当の豊かさに共感する人を増やしていく、そんなさまざまな取り組みが広がっていくことを願い、私どもは積極的な取り組みをしております。

資源の 3R 『リデュース(減量)・リユース(再利用)・リサイクル(再生)』には法制度の整備だけでなく、3R 社会の構築を目指して行政、事業者、消費者の幅広い参加による運動を展開し、市民一人一人の理解と協力を得ることが不可欠ではないでしょうか。手間や不便さを省みず資源環境保全に資する行動をすることではないでしょうか。

この企画は、リターナルピンを繰り返して使用するこ

とが廃棄物の減量、発生抑制、再生利用、熱回収、及び資源の有効活用につながることを訴え、一升ビンやビール瓶等々のリターナルピンの積極的な活用を呼びかけております。

そして、瓶の中身であるものの原材料は、主に水であります。かつては、「湯水のように使う」と例えられた水も、現在では限りある貴重な資源となり、人々は水を大切にす社会への変革をしてまいりました。しかし、まだまだ「水資源に対する認識が薄い」のではないかと考えます。

皆さん覚えておられますか。

当クラブの尾崎会長の時に、2660 地区第 2 組のインターンティミーティング「1M」を担当しました。その時の R I 会長カール・ステンハマー会長は、国際ロータリーのテーマとして「SERVICE、Above Self」超我の奉仕をかかげられ、第 2 組 1M テーマとして、(水保全)・(識字率向上と教育)・(クラブの充実)・(職業奉仕の事例研究) の 4 つを、あげておられます。

日本は国内どこに住んでいても、どんな時も、いつでも真を自由に飲み、使用することができますが、カンボジアを始め、世界を見回した時の水の環境は、その 90-95% は処理されず、身近な川に直接流され、また不衛生な水のため 8 秒ごとに子供が一人死亡しているのが現状です。

過去ホストクラブと致しまして、水保全を掲げ「世界・水フォーラム事務局」又、「日本・水フォーラム」事務局長として、広く活躍されておられる「おだひであき(尾田栄章)先生」に「世界の水・日本の水」サブテーマとして「極めて厳しい現在と解決に向けて模索」という演題で講演いただきました。豊富な知識の中から、具体的な援助策等の指針となる様、又、今後私たちロータリアンの活動にも、大いに役立つことが多くあったのではないかと思います。水を大切に使う社会とは、私たち一人ひとりが水を大切にす意識を共有しつつ、普段から雨水や風呂の残り湯などの利用や、無理のない節水を進め、必要などころでは水を使い、水をはぐくむ環境を守るといった、水に関するメリハリのあるライフスタイルの事です。

水の使い方のことで、今一番、資源の原点に戻り、家庭に、地域に、地球にやさしく私たちが安心して未来に残さなければならぬ貴重な水資源について、日本の歴史・文化から現在社会が抱える課題など、あらゆる角度から考えるべきであると思います。地球温暖化対策の CO2 排出量削減等と合わせて、「水資源の大切さ」をこれからも訴えていきたいと私たちは思っております。

この水の大切さを踏まえ、私の酒屋業も合わせて考えますと、今後の私の人生の仕事として、特区地区を利用した新しい酒を造りたいと思っております。

皆さん、どぶろくをご存知でしょうか？

「どぶろく」と「にごり酒」の違いをご存知でしょうか？同じように白く濁ったお酒なので、同じもののように思いますが、酒税法上の違いがあります。

「どぶろく」と「にごり酒」の違いを知る為、まずは「清酒 日本酒」とはどのようなものなのか、いわゆる日本酒とは厳密にどのようなものを「清酒」と呼ぶのかを知っている人は少ないではないでしょうか。

皆さまご存知でしょうか？

清酒とは「発酵させてこしたもの」と定義されているのです。

この「こす(濾す)」という作業は「じょうそう(上槽)」と呼ばれています。「もろみ(醪)」を「酒」と「酒粕」にわけ作業です。「もろみ(醪)」を酒袋に入れて、圧力をかけて搾ります。「清酒」は米・米麴・水を発酵させてこしたものであるため、一般的には透明です。

では「にごり酒」は清酒になるのでしょうか。それは酒税法で定義されているように「発酵されてこしたもの」かどうかによります。

「じょうそう（上槽）」で目の粗い酒袋を使って、もろみ（醪）をこした場合は、酒袋の目を通り抜けたもろみ（醪）で酒は白濁しています。これが「にごり酒」です。「にごり酒」は白濁していますが、こしているのが「清酒」になります。つまり、お酒の色や透明度ではなく「こしているか、こしていないか」で清酒か濁酒でないかを判断するのです。

「どぶろく」とは、「米、米こうじ及び水を原料として発酵させていますが、こしていないもの」です。ですから酒税法上では、清酒には分類されず、「雑酒」に分類されます。

「どぶろく」の呼称は「濁酒（だくしゅ）」とされています。農家が自ら製造販売する特区のみを「どぶろく特区」と称する場合もあり、その認定数は 150 程あります。

高槻市の原及び榎田地区もその特区地区指定であり、「高槻・とかいなか創生特区」という名称であります。現在、はたなか農園の、はたなかさんが「原いっぱい」のいう、どぶろくを作っておられますが、生産者が高齢のため、今後製造するのは困難となりました。

相談の結果、私たち有志 15 名程が集まり、榎田地区の村おこしを兼ね、榎田地区にお住まいの方と農家の方のお力を借りて、今年 11 月頃に榎田の新米を利用した、どぶろく第 1 号 仮称「どぶろくいっぱい 榎田の里」を作成しようと考えております。

その折には、地産地消 榎田の村おこしのため、ロータリアンの皆様のお力添えをいただきたいと思っております。

最後になりましたが、私が中心となって、70 歳以上の老若男女が集まり、はたなかさんに代わって、どぶろくの酒造りを絶やさず、榎田地区の村おこしに頑張っていきたいと思っております。皆様、よろしく願い致します。

みんな、買ってや！！ありがとうございました。

◎ニコニコ箱報告

- ・皆出席内祝 深野君（これからも皆出席を続けられるよう頑張ります）、早川君、奥田君
- ・塚本さん、ご入会おめでとうございます。ワイン泥棒、京都で捕まりました。 坂野君
- ・塚本さん、入会おめでとうございます。これから宜しく御願致します。 浜田君
- ・塚本さん、ようこそ高槻 RC へ 橋本君
- ・塚本さん、ご入会おめでとうございます。波々伯部君
- ・新入会員 塚本さんをお迎えできまして。 倉本君
- ・塚本さん、高槻ロータリークラブへようこそ!!長山君
- ・卓話を終えて。 塚本さん、ようこそロータリーへ。 西田君
- ・高槻ロータリークラブに入会させていただきありがとうございます。 塚本君
- ・塚本さん、ようこそ高槻 RC へ。 大木君

本日の合計	¥ 68,500-
7/1 よりの累計	¥2,242,746-

◎R 財団への寄付

早川 博之君	¥5,000-	西田 直弘君	¥5,000-
奥田 晴基君	¥5,000-		

本日の合計	¥ 15,000-
7/1 よりの累計	¥1,000,000-
一人当たり平均	\$ 181.55

◎米山奨学会への寄付

浜田 厚男君	¥5,000-	西田 直弘君	¥5,000-
--------	---------	--------	---------

本日の合計	¥ 10,000-
7/1 よりの累計	¥ 794,500-
〔 会員より	¥527,000-
クラブより	¥267,500-
一人当たり平均	¥15,578-

